

注射に変わる薬剤投与で医療に貢献



崇城大学

櫻 木美菜准教授は、予防接種の注射で泣き叫ぶ息子を見て、薬を皮膚浸透させる研究に着目した。そのままでは皮膚浸透が難しい薬を界面活性剤からなるナノカプセルに封入し、このナノカプセルの形状と皮膚浸透性の関係性や、皮膚浸透メカニズムを解明している。現在注射でしか投与できない薬が塗り薬となれば、注射投与を頻繁に行っている病気の方の生活の質の向上や、医療従事者不足が懸念される発展途上国における薬やワクチンの普及に貢献できる。

工学部 ナノサイエンス学科
櫻木 美菜 准教授



キャンパス万華鏡

イチオシ研究編①

写真が語る大学の横顔

大学の研究まで1日1夜、様々な研究活動に心血が注がれている。研究をその人なりの動かし動機は純粋な知的好奇心である場合もあれば、自らの研究の延長線上に止まらず、深く社会的な意義を持つ研究や、人類社会に存在する課題の克服を目指す研究もある。全国に所在する日本私立大学協会加盟大学では、まさに知を究める多彩な研究活動が行われている。加盟校に呼びかけ集まった、イチオシ研究をここに紹介する。